

【宗祖法然上人御法語】

(第八) 万機普益
ばんきふやく

1

浄土一宗の諸宗に超え、念仏いちぎよう一行しよぎようの諸行すぐに勝れたりと言ふ事は、万機ばんきを撰せつする方かたを云うなり。

浄土宗一つが他の諸々の宗派よりも秀でており、称しようみよ名念仏の

一行いちぎようが他の諸々の修行すぐに勝れているというのは、あらゆる人々を漏れなく救い撰とるといふ点について言っているのです。

2

理観ぼだいしん・菩提心どくじゆ・読誦どくじゆ大乘・真言・止観等はいずれも仏法のおろかにましますにはあらず。

心を静め智慧をもつて真理を求める修行や、無上の覺りを志すこと、大乘經典どくじゆを讀誦どくじゆすること、真言を唱えること、そして心の散乱を抑えてあらゆる存在や事象の真相を見極める行ぎよなどは、いずれも仏教として不十分な教えというわけではありません。

3

皆しやうじめつど生しやうじめつど死滅度の法なれども、末代になりぬれば力及ばず。行ぎやうじや者ぎやうじやの不法なるによりて、機は及ばぬなり。

どれも皆、生しやうじ死じを繰り返す迷いの世界から衆しゆじやう生しゆじやうを救う教えではあります。末法まつぽうの時代になると修行者の能力がそれらの修行に適わなくなり、修行者は仏の教えに背くようになって、そうした修行についていけなくなるのです。

4

時をいえば、末法まつぽう万年の後、人にんじゆ寿じゆ十歳につづまり、罪をいえば十悪五逆の罪人なり。
 (それに対して念仏往生は)時について言えば、末法まつぽうの時代が一万年続いた後、人の寿命がわずか十歳にまで縮まった時代でさえ、また罪について言えば、十悪五逆という重い罪を犯した罪人でさえ叶うのです。

5

老少男女のともがら輩はい、一念十念のたぐいに至るまで、皆せつしゆふしやこれ撰せん取と不捨ふしやの誓いにこも籠こもれるなり。
 しかも、老若男女を問わず、たとえわずか一遍や十遍のお念仏しか称えなかつた者に至るまで、皆、阿弥陀様が「必ず救い導こう」と誓われた本願に抱き救われるのです。

この故に諸宗に超え、しよぎよう 諸行すぐに勝れたりとは申すなり。

ですから、ほかの諸々の宗派よりも秀で、諸々の修行に勝ると申し上げるのです。